



鉄スクラップ

鉄スクラップに天井感が出てきています。

7月17日に東京製鐵が下げた後、そのちょうど1ヶ月後の8月17日に東京製鐵が価格を上げに転じました。

これは、トルコが米屑を大量に購入した為に、アジア向けの鉄屑が減り価格が反発したのがきっかけになりました。

米屑も国内屑の発生が少ない上、少しずつではありますが、国内の製鉄所の操業率も上がってきている為、余剰分が少ない事が原因となっています。

韓国、台湾は、米屑が手当てできない上に到着迄の時間もかかるという毎度の理由で、近場の日本屑の手当てが価格上昇の始まりでした。

日本国内も発生は悪い上、前回の上げの時に(5月頃迄)市中に若干の滞留していたスクラップが一斉に放出され、その後も値下がり環境だった為に問屋サイドも在庫せず出荷優先にしていました。

その為、市中に滞留しているスクラップがほとんど無く、韓国・台湾が買いに来てても値段を出さないと荷が集まらない状況になりました。

ただ、製品市況は海外も決して良いとは言えず、値段の上昇には慎重な対応だったのですが、アジアマーケット指標の一つである関東鉄源の入札が8月10日にあり、先高を示す形で落札されました。

これが火付け役となり、輸出成約が少しずつ決まりだし、これに対抗する形で東京製鐵が防衛買いの為に価格を上げに転じました。

東京製鐵の動きに対し、その他の電炉も前年度より生産量が上がってきている事から、東京製鐵の上げに追随し、これまた荷が入らなくなるので東京製鐵は更に価格を上げ、輸出業者も米屑、国内屑の価格の上昇から高値での成約をしなければとの事からスクラップ価格が上がり続けていました。

このところの急な円高により日本屑の割高感が

出た事から、韓国、台湾も様子見に入り、鉄屑価格が一服、この先は、どの様な展開になるか非常に気になる所ではあります。

今現在は、輸出価格が下がり始めている事から、国内価格有利の状態にあり、国内の高炉、電炉とも入荷が順調な事から、下げが散発しています。

先日関東鉄源の入札があり、その結果が、今現在の輸出価格の中では高値だった為、市況は弱含み横這い傾向で推移するのではと予想されます。

依然国内の鉄スクラップは、猛暑の影響もあり、品枯れの状態にある上、8月より9月の方が生産量も高い事から、下がり続けるとは考えづらく、緩やかなものとなりそうです。

鉄相場も非鉄相場もリーマンショック以前とは違い、非常に先の読みづらい状況になっています。

リーマンショック以前は、世界同時好景気もあり、上がり続けると予想はできました。

しかし世界バブルがはじけた後は、その爪跡が世界中に残り、新興国の経済成長が順調とはいえ、癒えぬ傷跡が現れる度に相場が変動し、それが落ちていた頃になると又次の傷口が現れ相場が変動すると言う何処から現れるのか予想もつかない不確定な情報により、踊らされているのが現状です。

インターネットの発達で、情報を一瞬のうちに世界に同時発信してしまう事がもたらした弊害の一つと私は考えているのですが・・・。

情報はスピードが勝負、でも私達の取り扱うスクラップは、アナログ的なゆっくりとしたスピードが理想です。

ISO14001

先月の8月26日に、ISO14001の更新審査が行なわれました。

特に指摘された事柄も無く順調に終了いたしました。

審査員の方のお話ですと、昨年はISO返上や休止を申し出ていたところが多かったそうですが、今年は休止していたところが、再開を申し出ているのが増えてきたそうです。

このような話を聞くと、景気が若干良くなり始めたのかと考えてしまうわけですが、いかがなものでしょうか。

猛暑の年

今年は猛暑とも言える年ではなかったでしょうか？日本でも熱中症による死亡者が日々増加と言う不幸なニュースも記憶に新しいかと思えます。今年は異常気象が多く、これから台風シーズン突入ですが、どうなるのやら・・・。